



# もがみ 仕事の魅力



2020  
Vol.17  
(2月)

## 通信



## もがみの農業を元気にする意見交換会

2月14日、山形県立新庄神室産業高校において、生物生産科・生物環境科の1年生47名を対象に最上地域で意欲的に農業に取り組む5名の若手農業者・女性農業者によるパネルディスカッションと意見交換会を開催しました。前半はパネリストに農業を始めた理由や魅力を発表してもらい、後半はグループに分かれて意見交換を行いました。高校生の農業への興味・関心が高まり、抱いていた農業のイメージがプラスに変化しました。

【担当：最上総合支庁農業技術普及課】



島腹 貴宏さん (新庄市)



農大卒業後、即就農。水稲、ねぎ、たらめの芽の複合経営。ねぎは新技術を取り入れ、積極的に規模拡大。「若手ねぎ研究会」(会員17名)会長として「もがみねぎ」のブランド化に力を注ぐ。「慣れるまでは大変だが、会社勤めと違い経営者なので計画的に作業を進めれば、休みたいときに休める」



青柳 直希さん (金山町)

農大卒業後、即就農。農事組合法人の理事として水稲、落花生、ミニトマト、にんじん、水稲・林業の作業受託(ドローン防除等)、農産加工を実践。「もうかる農業を目指している。失敗もあるが、つまずいただけと考え直し、挑戦している」「12~3月は週休2日。繁忙期でも事前申告で調整できる」



八鍬 和泉さん (舟形町)



非農家出身。夫とともにねぎ栽培を開始。何も知らず不安であったが、先進農業者のもとで1年間研修を受け、技術を身につけた。その後、家族で株式会社を設立し、水稲、ねぎ、大玉トマト、マッシュルームを栽培。「ここ最上には相談できる人がたくさんいるので、農業を職業選択の一つ」





### 新田 祥子さん (真室川町)

他産業に従事後、両親が続けてきた農業を継承したいと思い就農。ミニトマト、水稲、ほうれんそう、にんじんを栽培。

「農業はやった作業に応じて結果がついてくるのが魅力」ミニトマトを拡大し、雇用を確保するために株式会社化。「収入を安定させて、経営管理をしっかりしていくことが大切」



### 熊谷由美子さん (鮭川村)

大学を卒業後、他産業に従事したのち、家業の有限会社に参画。菌床なめこ専門経営。

県内のマルシェなどへの出店で、なめこ料理をPRし普及。「大好きだったバンドのメンバーになめこを食べてもらった。夢が農業を通して実現した」「高校時代、まずは夢中になれることを探してほしい」



### 最上の農業の動き・山形県立農林大学校の紹介

農業技術普及課からは、最上地域の農業の状況や園芸作物等の産地拡大の動きを紹介。

また、山形県立農林大学校の教授からは、学びのステップアップとして実践的な農林業の知識や技術の養成を行う農林大学校の紹介を行った。



◆高校生からは、「農業は重労働で大変では?」「仕事は朝何時から夜何時までですか?」「収入はどれ位ですか?」など率直な質問が出され、若手農業者は自らの経験や農業への思いを具体的に紹介しながら丁寧に答えていました。実施後のアンケートには「やり方次第で楽しく仕事ができそう」「あまり良いイメージはなかったが、自分のやりたいことが農業を通してできることに魅力を感じた」などの回答が多数見られ、農業への興味・関心が高まり、高校生が抱いていた農業のイメージがプラスに変化したことがわかりました。

～お問い合わせはこちらまで～

山形県最上総合支庁 (山形県新庄市金沢字大道上 2034)  
地域産業経済課 (産業振興) TEL 0233-29-1309  
農業振興課 (地域農政) TEL 0233-29-1319  
農業技術普及課 (経営企画) TEL 0233-29-1322  
発行日: 令和2年3月

農業はやり方次第でもうかる産業。職業の選択肢にぜひ入れてください。



最上総合支庁  
安孫子産業経済部長